

因連快二之又

田年生運絡故無

金刀の詩文譜也！ 亂中文學部の五年生譜也！

仁學友誦卷一

仁文庫前事務室における就職事務再開が、我々の強い要望にそちかりらず実現へと見通しが暗いとのひとつのこゝれ。

セムベリの隣の最後条件として文部省人口を算出するに
あつて言つたにしたが、それは我々が認めるから、日本の方
件へと進んで要求してくることは余りに明白である。つま
づ彼らの言ふんとするといつてアストライキの解説以外の何
物でもないものである。

卷之三

金匱要略

16日に活だれた村文学部教授会と入団交が就職事務所開
への最終登録の場として決定されたが、一学友の学生
大公、斗争委員会夫婦に致謝する発言を原因として、教授
会館にて逐次流れたりしてしまった。だが我々は委員
会館において更に就職、就職委員会等と接觸を續け、(1)就職
問題事務に就職の難易度の幾つについての最少限に止らる
として、かの執行する後、以後の難易度について用意文書を
訂正する。」ここから「難易度を文し、翌日(17日)から
争病が再開していることになった。

四連戦及び斗争委員会は実践問題解決のために全員で努力しなさい。しかし事務局の態度といつもうは至る誠意を賭けたじめのとしてしか現れしてゐるハなし。別論今後も我々は一つの問題の解決のために努力していくものである。だが、その際忘れてはならないのは、我々が競技移動性のためにしてストライキ斗争をやっているんだという点である。この大目的に沿つて事務機能が回復されたにしてもそれと同時にまた、我々の敗北をしかねないのがある。あらゆる斗争運動を粉砕し、二つの力をもつて就職者再開をも実現させねばならぬ。」

だが、文部省の「新憲章は」の確認事項に対する、一一〇回を過ぎてようやく審査に射撃されるのが何とかして、う理由で事前再提出を拒否した。そこで我々は、繊め切り期日の迫つた折もくあるので、我にひとつがし得る最大限の譲歩を行なった。即ちそれは、先の確認事項の①に因るては學校の制、②に仕事の制、③に会員の制限の取つて、これが最終的結果が示せるまでの審査は中止せない、といふものであった。我々のところは原稿に対する間違

歎私輶遊員会及び学生委員会の、その他の事務局を設
得し得るといい、8月から10月再開が確実に見えた。

本草綱目卷之三

新編
古今圖書集成